

## 会 議 録

会議の名称		第3回洞峰公園管理・運営協議会		
開催日時		令和8年5月25日 開会13時 閉会15時		
開催場所		つくば市役所本庁舎2階 職員研修室		
事務局（担当課）		公園・施設課		
出席者	委員	藤田委員長、藤井委員、木下委員、石濱委員、阿部委員、黒田委員、橋本委員、皆川委員、宮川委員、伊藤委員、山田委員		
	その他	五十嵐市長		
	事務局	山口課長、林課長補佐、海老澤係長、北島主任		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	3名
非公開の場合はその理由				
議題		<ul style="list-style-type: none"> <li>● パートナーシップ会議の報告及び市への提言書（案）について</li> <li>● 令和8年度の洞峰公園コンソーシアム委員会について</li> <li>● つくば市洞峰公園管理・運営協議会設置要項の改正（案）について</li> </ul>		
会議録署名人	—	確定年月日	令和8年6月11日	
会議次第	1 開 会			
	2 議 事			
	(1) パートナーシップ会議の報告及び市への提言書（案）について・・・資料1、2			
	(2) 令和8年度の洞峰公園コンソーシアム委員会について・・・資料3			
(3) つくば市洞峰公園管理・運営協議会設置要項の改正（案）について・・・資料4				
3 その他				

## 4 閉 会

< 審議内容 >

・議題 1: パートナーシップ会議の報告及び市への提言書(案)について

- 報告(事務局)
  - 前回合意した名称整理:
    - 洞峰公園管理運営協議会 → 「洞峰公園コンソーシアム」
    - 委員会 → 「コンソーシアム委員会」
    - 分科会 → 「パートナーシップ会議」
  - 市民意見の収集(テーマ:アスレチック)
    - デジタルプラットフォーム「my groove」を活用し意見募集
    - 洞峰公園感謝祭でシール投票(114 票)を実施
    - 木製志向が強く、「木製は不要」票は 0
    - 利用者年齢(122 件):未就学児・小学生が中心だが、20~60 歳も 20 %超
    - コメント:難易度高い遊具、大人も使える遊具、遊具を増やしてほしい等
  - 第 5 回パートナーシップ会議(令和 7 年 12 月)
  - アスレチック体験(東京アスレティッククラブ協力)→体験を踏まえ意見交換
  - 24 基、点検・使用禁止の運用、修繕費用感を現地で共有
  - 意見の主な観点(5 類型)
    - 1) 価値の共有(使い方を知り良さを実感)
    - 2) リスクを学ぶ場としての価値
    - 3) 世代を超えた利用(高齢者利用の発見/大人利用ニーズ)
    - 4) コスト意識(市民参画・企業寄附の可能性)

## 5) 管理修繕の重要性(my groove で特に多い)

- 第 6 回パートナーシップ会議
  - 使用不可のアスレチック 6 基を現地確認し、修繕優先度を投票
  - 優先度 1 位:ターザンロープ
  - 「木材一択」ではなく、利用方法に合わせた素材選択が必要という意見
  - 自然との調和、長期利用(耐久性・維持管理)重視の意見
  - 放置への不満:ターザンロープは 2020 年 12 月に故障、長期放置への批判が顕在化
- まとめ
  - 洞峰公園らしいアスレチック価値(チャレンジ性/自然調和/世代横断)が共有
  - 短期成果だけでなく、中長期の方針明確化が必要
- 提言書案(藤田委員長案:資料 2)についての主な議論
  - 方向性(中長期)
    - 計画的な修繕・改修(修繕計画の早期策定)
    - 多様なニーズ(年齢層・学び・運動能力・安全な冒険心等)を踏まえた選定
    - 素材は木製に限定せず、維持管理コスト・メンテ性も総合勘案
  - 行動指針(短期:令和 8~10 年度案)
    - ターザンロープから優先修繕
    - 財源:森林環境税、クラウドファンディング等の検討
    - 令和 8~10 年度で停止中 6 基の修繕完了
    - 休憩施設・サイン等の付帯整備、体験教室などソフト事業
- 五十嵐市長の意見
  - 「目に見える変化」を迅速に示す必要

- 令和 10 年度完了は遅い。前倒して直すべき
- 見積概算:ターザンロープ約 500~600 万円、6 基合計約 2,000~3,000 万円
- クラウドファンディングで“本来行政がやるべき修繕”を賄うのは印象に注意
- 企業寄附(プレート掲出等)を活用し、まず 1 件目の事例化を急ぐ提案
- 500 万円規模なら随意契約も含め、発注工夫でスピードアップ可能では
- 今後は植栽管理・生物多様性・ツアー・利用料金など議論も進めるべき

(ロードマップの加速)

- 委員意見(提言書の修正観点)
  - 木下委員:6 基を直しても経年劣化で次々壊れる。メンテナンス計画の明記が必要
  - 藤井委員:会議間隔が空き「次が見えない」不満が出た。市民への迅速なフィードバック/発信を提言に入れるべき
  - 阿部委員:子ども向けだけでなく高齢者ニーズも。健康器具的な遊具や今後の追加も視野に
  - 石濱委員:企業寄附など個別財源があると質の高い整備検討も可能。他領域にも応用余地
  - 藤井委員(追加):寄附スキーム検討が遅延要因にならないようバランスが必要
  - 五十嵐市長(再):寄附は固く考えすぎず、まず 1 件作る。寄附の有無に関わらず来年度内に直す予算確保が重要
- 取りまとめ
  - 提言書案は委員長が修正し、委員へメール審議で確定する方針

・議題 2:令和 8 年度 洞峰公園コンソーシアム運営(スケジュール/テーマ/各分野の動き)

- 事務局提案(資料 3)
  - 課題:パートナーシップ会議の継続運用と「プロセスの見える化」が不足
  - 方針:現地開催+デジタルプラットフォーム「my groove」併用で意見収集と公表
- 年間イメージ(案)
  - 5 月:委員会(本会)
  - 管理運営方針の作成・公表
  - 上半期テーマを決めて 6~9 月に実施、10 月に次回委員会で後半テーマ検討…(当初案)
- テーマ案(上半期で 1 つ実施想定)
  - 1) 持続的運営の仕組み(財源・民間活用・協賛・ネーミングライツ等/マルチエ等の実証実験)
  - 2) 学び・体験(観察会・WS・ガイド企画等)
  - 3) 市民が運営に関わる仕組み(サポーター制度等。既存のアダプト制度との差が課題)
- 各分野(環境/教育/施設管理運営)の動き(上半期の準備・調査の実施と公表)
  
- 自然環境(自然共生サイト/沼)に関する議論
  - 木下委員:洞峰公園は自然共生サイト登録済み。施設以外の管理は専門家意見に基づき進む。テーマから外して“黙る”のではなく、少しずつアクション・周知を
  - 石濱委員:沼は論争になりやすい。外来種等で難易度が高い一方、小規模

な水域造成など市民参加しやすい案はあり得る。共通知識の共有が必要

- 橋本委員:ヨシ等で水面が狭まっている体感。除去や浄化を進めるべきでは

- 石濱委員:ヨシ原は鳥類の繁殖等で保全価値もある。水面確保とのバランス、専門知の共有が重要

- 藤井委員:活動団体や取り組みの基礎情報が不足している。まず情報発信を継続し、タイミングを見て市民協働へ

- 木下委員:NPO として年間の観察会・ガイド・保全活動等は既に多数実施。これらの情報共有が鍵

- 上半期テーマの決定に向けた整理

- 論点

- テーマ 1 は「お金の議論」に寄りやすく慎重意見もある一方、避けては理解を促す意義もある

- テーマ 2・自然環境は短期で提言までまとめる難しさ(沼は特に長期戦)

- 結論(合意形成)

- テーマ 1 とテーマ 3 を統合した内容で進める(市民の関わりと持続運営をセットで設計)

- 提言を出すタイミングは当初より 1~2 か月後ろ倒しし、準備期間を確保

- 自然環境・学び(テーマ 2 相当)は年間を通じた情報発信・準備を進め、適切なタイミングで市民協働と提言へ

・議題 3:設置要項(資料 4)改正

- 事務局提案

- こども部→こども・保健部への組織改編に伴う文言修正

- 部長に限定せず「部長または次長」等、出席可能者に柔軟化(文言は本部確認中)
- 結論
  - 事務局一任で改正を進めることです承

#### ▼決定事項

##### ・提言書(アスレチック修繕・改修)

- 委員長が意見を反映して修正案を作成し、委員へメール審議で確定する
- 修正観点(反映予定)
  - スピード感(前倒し)と「市民への迅速な説明・発信」
  - メンテナンス計画の明記
  - 子どもに限定しない(成人・高齢者含む)利用促進策
  - 財源はクラファンの扱いに注意しつつ、企業寄附等も選択肢として検討

##### ・令和 8 年度の運営方針(パートナーシップ会議テーマ)

- テーマ 1(持続運営)+テーマ 3(市民参画)を統合したテーマで進める
- 提言タイミングは当初計画より 1~2 か月後ろ倒しし、準備期間を確保
- 自然環境・学び領域は、基礎情報の発信・共有を継続し、成熟した段階で市民協働・提言へ

##### ・設置要項の改正(資料 4)

- 事務局一任で文言調整・改正手続きを進める

##### ・TODO(期日が早い順)

- 提言書案(資料 2)の修正案作成(担当:藤田委員長)
- 修正案のメール審議・確定(担当:委員各位/事務局)

- 企業寄附活用の具体案整理(対象:ターザンロープ等、見積・手続含む)(担当:公園・施設課)
- 令和 8 年度パートナーシップ会議(統合テーマ)の設計(論点整理・実証実案・発信計画)(担当:公園・施設課+関係者)
- my groove 等での「プロセス見える化」(意見募集・結果公表・進捗発信)(担当:公園・施設課)
- 設置要項改正(こども・保健部表記、部長/次長等の出席要件)(担当:事務局)
- 次回委員会日程の再調整・連絡(担当:事務局)

## 第3回 つくば市洞峰公園管理・運営協議会

### 次 第

日 時 令和8年(2026年)5月25日(月)

午後1時から

場 所 つくば市役所 2階 職員研修室

#### 1 開 会

#### 2 議 事

- (1) パートナーシップ会議の報告及び市への提言書(案)について・・・資料1、2
- (2) 令和8年度の洞峰公園コンソーシアム委員会について・・・資料3
- (3) つくば市洞峰公園管理・運営協議会設置要項の改正(案)について・・・資料4

#### 3 その他

#### 4 閉 会

---

#### 配布資料

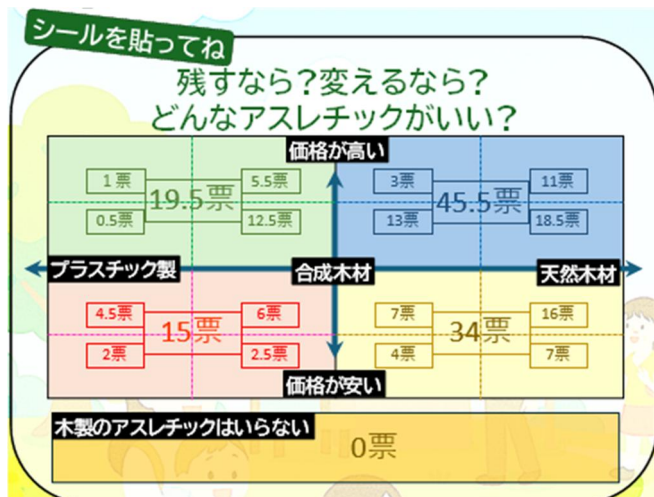
##### 次第

- 【資料1】洞峰公園パートナーシップ会議の報告について
- 【資料2】洞峰公園アスレチック施設の修繕及び改修及び改修に関する提言書(案)
- 【資料3】令和8年度 洞峰公園コンソーシアム委員会の内容について
- 【資料4】つくば市洞峰公園管理・運営協議会設置要項改正(案)

## 洞峰公園パートナーシップ会議の報告について

令和7年（2025年）10月25日感謝祭の際に実施したパートナーシップ会議の中で、アスレチックについてアンケート調査を行いました。その後、「アスレチックの今後」をテーマにパートナーシップ会議を2回実施し、各回の内容については、以下の通りです。

### 1 アンケート調査結果



使っているあなたの年齢を教えてください。

年齢別	人数	割合
～未就学児	41人	(33.6%)
小学生	49人	(40.2%)
中学・高校・大学	3人	(2.5%)
20歳代～60歳代	27人	(22.1%)
70歳代～	2人	(1.6%)

その他いただいた御意見

- ・もっと難易度が高いものにしてほしい。
- ・大人もできるのがあるといい。
- ・遊具をいっぱい作ってほしい。
- ・修理中の遊具をもっとはやくなおしてほしい。
- ・1日中楽しめるフィールドアスレチックを作ってほしい。

### 2 第5回 洞峰公園コンソーシアム パートナーシップ会議

開催日：令和7年（2025年）12月20日

テーマ：「アスレチックで遊びながら、公園のこれからを考えよう」

参加者：約20名

実施内容：

前半は、洞峰公園の管理業務を受託している「株式会社東京アスレティッククラブ」のインストラクターの指導の下、「丸太のぼりおり」「とびあがりつり輪」「いも虫前進」の3基について、実際に体験していただきました。

後半は、新都市記念館に移動し、“井戸端ミーティング”を開催し、つくば市から、ア

ストレッチの紹介や、管理・点検・修繕にかかるコストについて説明した後「洞峰公園のアスレチックについて気になること」をテーマに参加者で話し合いをしていただきました。



いただいた意見：

- ・インストラクターの説明を受けて体験することで使い方が分かったものも多いため、今後も学ぶ場が必要
- ・危険を排除するだけでなく、子どものチャレンジや、大人の見守る姿勢が大切
- ・リスクを排除するだけだと、結果的に子どもたちの遊び場が少なくなってしまう。管理責任ばかりを求めるのではなく、使う側が多少のけがを受容する意識も必要だと思う。
- ・公園側が「危ない」ではなく「チャレンジできる」という広報の打ち出し方をすることも大切。
- ・アスレチックというと子どものためのものだと思っていたが、高齢者の健康づくりにもなるのだとわかった。
- ・アスレチックだけでなく、鴨がたくさん見られたことで子どもが喜んでいました
- ・鉄棒を設置してほしい
- ・木製の遊具が良いと思っていたが、説明を受けて修繕コストがかかることが良く分かった。
- ・自分たちで手をかけたものは大切に使う。市民のメンテナンスチームをつくって少しでも管理運営にかかわれるようにしたら、公園への愛着も増して、管理運営のコストダウンにもなるのではないかと。
- ・説明板を設置するだけでなく、今回のように学ぶ場があると遊び方が広がる。
- ・子どもの遊びだけでなく高齢者の健康にも良い遊具があると洞峰公園としての特色が出ると思う。
- ・コスト面を考えると、企業からの寄付など柔軟な発想が必要。

### 3 第6回 洞峰公園コンソーシアム パートナーシップ会議

開催日：令和8年（2026年）3月8日

テーマ：「復活させたい“あのアスレチック”について、みんなで考えよう」

参加者：約 20 名

実施内容：

前半は、洞峰公園の使用禁止アスレチック遊具（ターザンロープ、なまけもの渡り、馬のり前進）を巡り、つくば市から使用禁止の理由などの説明を受けました。途中、材質が擬木（樹脂など）の遊具にも触れ、素材やコストについても説明を行いました。

後半は、新都市記念館に移動し、“井戸端ミーティング”を開催しました。つくば市から、現在使用禁止になっているアスレチックの特徴について説明した後に、参加者は各自、復活してほしいアスレチックに順位をつけ、順位表を基に、皆さんで話し合っていました。



## 人気の遊具

### 1位 ターザンロープ

- ・他の遊具では、代替できない体験ができる
- ・子どもも大人も楽しめるワクワク感・冒険感がある
- ・子どもと一緒に遊んだ思い出のある、洞峰公園の象徴的な遊具

※その一方で、修繕コストの高さや遊びの難易度を指摘する声も挙げられました。

### 2位 なまけもの渡り

- ・ゆらゆら揺れる動きが楽しい
- ・子どもと一緒に遊べる

### 3位 馬のり前進

- ・落ち着いて遊ぶ子どもに合う
- ・ロープに比べて荷重を受け止める面積が大きく、修理のリスクが多少下がるのではないかと

その他いただいた意見：

- ・ターザンロープのように激しく遊ぶ遊具は、金属など耐久性の高い素材、平均台や馬のり前進のようにゆったり遊ぶ遊具は木製など自然素材をいかすのが良いと思う。
- ・基礎は金属、手が触れる部分は木にするハイブリッド構造により、安全性・耐久性と景観を両立するのはどうか。
- ・洞峰公園は、自然環境が魅力であり、木製遊具があることで安らぎを感じる。

- ・色身を調整すれば金属製でも景観に馴染ませることは可能であり、遊具が撤去されるよりは素材を変えてでも残るほうが望ましい。

#### 4 意見交換プラットフォーム (my groove) による投票

「復活してほしいアスレチック」については、意見交換プラットフォーム (my groove) でも同様に投票していただきました。

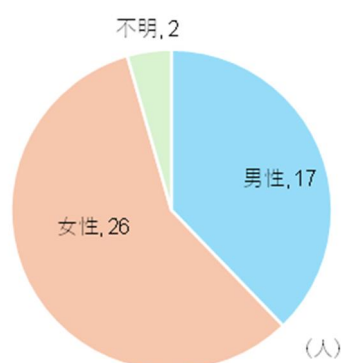
実施期間：令和8年3月7日～4月17日

有効回答数：45件（重複回答者を除く）

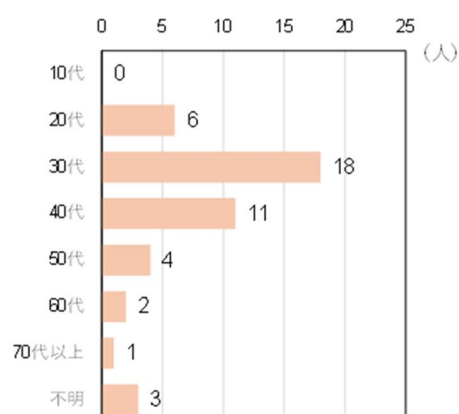
##### 【回答者の基本情報】

回答者45名のうち、30、40代の回答割合が6割以上を占めており、子育て世代の回答が多く得られたと考えられます。

##### 【性別】



##### 【年齢別】



##### 【投票結果】

my groove での投票結果は、パートナーシップ会議と同様「ターザンロープ」が最も多く票を集めました。次いで「平均台」が多くの票を集めました。

選択肢	回答数	割合 (N=45)
ロープ登り	1	2.2%
なまけもの渡り	2	4.4%
馬乗り前進	1	2.2%
平均台	8	17.8%
ターザンロープ	32	71.1%
ロープクライミング	3	6.7%

## 主なコメント

### ターザンロープ

- ・息子が大好きな遊具で、壊れる前も子供達の1番人気でした。
- ・私自身の過去の体験として、中学生ぐらいになっても楽しんでたのがターザンロープでした！
- ・ターザンロープは、単なる遊具の一つではなく、「この遊具を目的に公園を訪れる」という来園動機を生み出す特徴があります。他の遊具が「あれば遊ぶ」存在であるのに対し、ターザンロープは「やりたいから行く」存在であり、公園全体の利用促進に大きく寄与します。低学年から高学年まで幅広い年齢層が楽しめる点も重要です。我が家には年齢の離れた三人の子どもがおり、それぞれの発達段階に応じて同じ遊具を楽しんでいます。特にターザンロープのような遊具では、年長の子どもが年少の子どもを手助けする場面が自然と生まれます。ロープを取ってあげる、乗るのを補助するといった関わりや、順番を待つ・譲り合うといった行動を通して、遊びの中で社会性が育まれていると感じています。
- ・アスレチック遊具が使用中止になったのが、2024年12月。それから1年以上が経過しているのに、いまだにアンケートなどを呑気にやっていることに呆れる。ターザンロープは誰が見ても人気のある遊具だったのだから、さっさと修理して、その上で他の遊具の修理検討を進めてください。市税収入は、過去最大を見込んでいるというのに。

### 平均台

- ・一部の修繕で使えるようになるのでターザンロープと合わせて補修してほしい。
- ・保育現場に携わっています。体幹が弱く長時間、座ってられないこどもが増えています。バランス感覚を楽しみながら養える遊具として期待しています。

### ロープクライミング

- ・子供から大人まで楽しむことができる。セーフティネットが子供のチャレンジを助け、大人は補助なしで筋トレできる。
- ・木製遊具のよさもあるのですが、より安全な方で選びました。

### なまけもの渡り

- ・木で直してもらえれば、よく手に触れるため、他にない遊具体験となると思うため。

### 馬乗り前進

- ・遊び方がシンプルで、いろんな年齢層が遊べるよさがあると思います！

その他いただいた御意見

- ・ アスレチックが老朽化して使用禁止になるたびに部分的に修繕するだけでは、洞峰公園全体の魅力も薄れていくと思う。今の時代に合わせた新しい形の魅力的な遊具の在り方を検討し、それをもとにアスレチック遊具をつくりかえていかないといけない。時間がかかってもそういうことをみんなで検討していくのが、市民参加の分科会で取り組むテーマの一つではないかと思う。

## 5 パートナーシップ会議やmy groove の意見を受けたまとめ

- ・ 2回のパートナーシップ会議とmy grooveでの意見募集を踏まえ、「アスレチックのチャレンジ性」「洞峰公園の自然との調和」「世代を超えた利用」など、洞峰公園らしいアスレチックの価値が改めて共有された。
- ・ 中でもアスレチック、特に使用禁止遊具の方向性には市民の高い関心が見られた。
- ・ 修繕の優先度が高いのは「ターザンロープ」。
- ・ パートナーシップ会議では景観・耐久性の両立の観点から、金属・木製を組み合わせ合わせたハイブリッド遊具の提案もあった。
- ・ 一方で市民側には「壊れてから長期間放置されている」という不満・焦りが強くある。議論や意見募集を受けて、短期的な成果を示すだけでなく、すぐに対応が難しいものも含め、アスレチック全体の中長期的な方針を明確化することが求められている。

## 6 アスレチックの方向性を考える上での予算の考え方

予算確保については、昨今の経済情勢等の変化により、つくば市に限らず、地方公共団体の財政状況は厳しさを増しており、限られた財源の中で優先度の高い施策を選択的に推進せざるを得ない状況にあります。

そのため、現状の使用禁止6基のアスレチックについても、市全体の優先度を考慮した上で、中長期的な方針を策定し、計画的に予算を確保していく必要があります。

さらに、予算確保にあたっては、市の一般財源に加え、補助金や民間資金の活用も含め、幅広く検討していくことが考えられます。

# 洞峰公園アスレチック施設の修繕及び改修に関する提言書（案）

つくば市長 殿

洞峰公園コンソーシアム委員会

委員長 藤田 直子

## 1. 提言の背景

洞峰公園コンソーシアムにおいて重ねてまいりました「パートナーシップ会議」における議論の結果を踏まえ、当委員会から洞峰公園の管理および運営に対して中長期的な対応方針および短期的な行動指針をここに提言いたします。

特に今回は市民の皆様の憩いの場であり、地域の重要な資産である「アスレチック施設」についてお示しするものです。

本提言は、利用者の安全確保と利便性の向上を最優先としつつ、少子高齢化や多様化する市民ニーズ、さらには行政における管理コストの最適化を見据えた、持続可能な都市公園管理のモデルを目指すものです。

## 2. 中長期的な対応方針

魅力ある公園環境を次世代に継承するため、以下の3点を中長期的な基本方針として策定し、計画的な施策の展開を求めます。

- **計画的な修繕・改修の実施** アスレチック施設の詳細な修繕計画を早期に策定し、経年劣化に応じた計画的な部分修繕および全面的な改修工事を適切に実施すること。
- **利用者の多様なニーズに応じた遊具選定** 改修にあたっては、利用者の年齢層、遊びの機能（運動能力の向上や安全な冒険心の実践など）を多角的に勘案し、最適な遊具を選定すること。
- **柔軟かつ合理的な材料選定と管理コストの抑制** 遊具の選定・決定にあたっては、従来の「木製」のみに限定せず、利用者の年齢、具体的な利用方法、および将来的な維持管理コスト（メンテナンス性）を総合的に勘案し、最適

な素材・構造を採用すること。

### 3. 短期的な行動指針（令和 8 年度～令和 10 年度）

上記の中長期方針を具現化するため、まずは令和 8 年度から令和 10 年度までの 3 年間を目標期間と定め、以下の具体的なアクションを迅速に起こすことを提言します。

- ニーズに基づく優先的な修繕の着手 利用者アンケート等で最も人気の高かった「ターザンロープ」の修繕から最優先で着手すること。
- 財政負担を軽減する新たな財源の導入検討 持続可能な管理運営体制を確立するため、森林環境税の活用やクラウドファンディング（CF）といった新たな財源の導入を積極的に検討すること。
- 効率的な工事発注による破損遊具の早期復旧 工事の発注方法を精査・工夫し、目標期間内（令和 8～10 年度）に、現在運用を停止している（壊れている）6 種類のアスレチックの修繕を完了させること。
- 利用促進に向けた付帯設備の充実とソフト事業の展開 アスレチックの利用をより一層活性化させるため、周辺の休憩施設（ベンチや日よけ等）や案内サインの増設を行うとともに、子供たちを対象とした「アスレチック体験教室」などのソフトプログラムを企画・実施すること。

以上

## 令和8年度 洞峰公園コンソーシアム委員会の内容について

### 1. 洞峰公園コンソーシアム委員会の位置づけについて

#### 【令和7年度の成果と課題】

##### (成果)

- ・ 市民参加型の公園運営を進める上で、対話型のパートナーシップ会議を実施しました。令和7年度はアスレチックをテーマにし、幅広い年代の参加が見られました。
- ・ 加えてデジタルの場（my groove）を組み合わせ、多様な年代の意見を聴取することができました。

##### (課題)

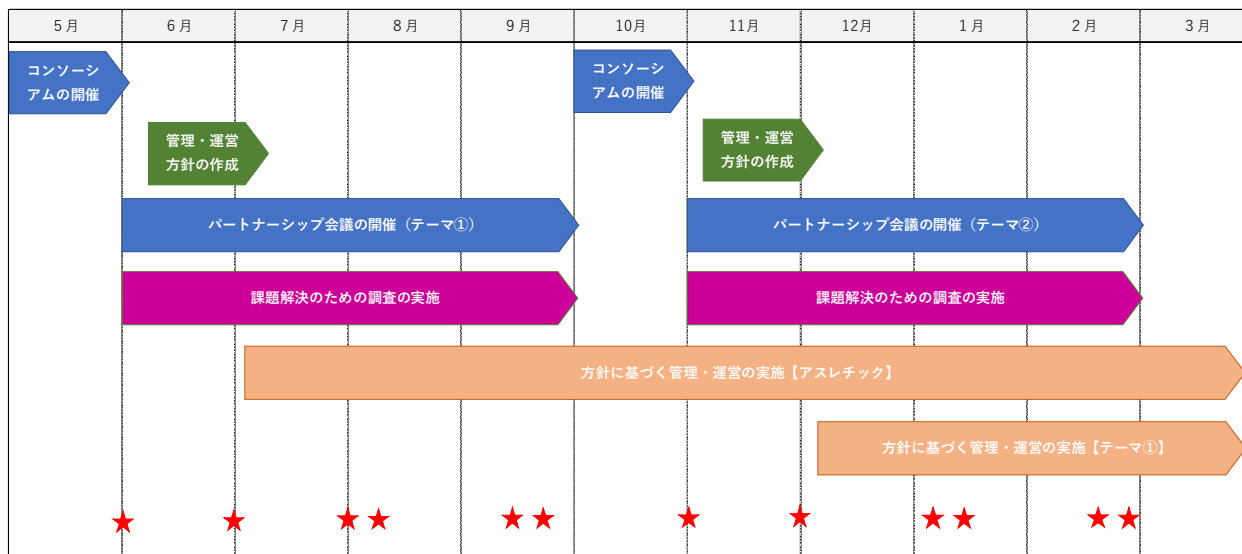
- ・ 一方で市民からはパートナーシップ会議の方向性の不透明性を指摘する声も一定数あげられました。（開催時期がわからない、議論した内容がどう反映されるのかがわからない、など）
- ・ 「市民参画型の公園運営」の機運を醸成し、市民が洞峰公園に関わり続ける仕組みをつくるためには、パートナーシップ会議の継続的な運用とプロセス（会議で議論した結果がどうなったか・どうなるのか）の見える化が重要と考えます。

#### 【令和8年度の方向性】

- ・ 令和7年度の「アスレチック」のように、洞峰公園の運営にかかる重点テーマを定めてテーマごとに2回のパートナーシップ会議を計画しています。また、より多様な意見聴取のため、引き続き my groove での意見募集もあわせて行います。
- ・ また、下記のプロセスを my groove 等で見える化し、市民が洞峰公園に関わり続ける機運の醸成を狙います。
  - ① パートナーシップ会議の対話や my groove で意見を聴取する
  - ② 集まった意見をもとにコンソーシアム委員会で議論する
  - ③ 結果をコンソーシアム委員会から市に提言する
  - ④ 市は提言をもとに実施方針を策定する
- ・ パートナーシップ会議は「環境」「教育」「施設管理・運営」の3部会を統合した上で、開催にあたっては藤井委員の協力を受けながら、市民参加型で行います。なお「環境」「教育」「施設管理・運営」の分野自体は撤廃するものではなく、重点テーマもそれぞれの分野にひもづく内容を選定します。（詳細は「3. テーマ設定の考え方」にて記載）
- ・ 市民が洞峰公園に関わる機会を増やすことにより、機運を醸成し、行政と市民がともに新しい公園経営を長期的に育てられるような体制を目指します。

## 2. 洞峰公園コンソーシアム委員会の運営及び全体スケジュールについて

【図 令和8年度洞峰公園コンソーシアム委員会 全体スケジュール（案）】



★：デジタルプラットフォーム（my groove）などにおける広報活動やパートナーシップ会議に参加できない方の意見の集約

- ・ 令和8年度の洞峰公園コンソーシアム委員会は、5月及び10月の2回を予定しています。
- ・ 令和8年度については、テーマを最大2つにし、それぞれ2回ずつパートナーシップ会議の開催を予定しています。
- ・ 令和8年度以降も、デジタルプラットフォーム（my groove）を活用し、広報活動だけでなく、意見集約を実施します。

### 3. テーマ設定の考え方

パートナーシップ会議で議論するテーマについては、これまでのコンソーシアム委員会での議論に加え、既存アンケートやデジタルプラットフォーム（my groove）での意見募集において見られた課題（下記表）を踏まえて設定します。

【表 洞峰公園の課題一覧】

洞峰公園の目指すべき姿（要望）	課題
自然豊かな公園環境 (42.07%)	公園としての管理と自然共生サイトとしての区別 →環境を配慮した植栽管理 →守るべき生き物の選定 →洞峰沼の管理方法
公園利用者の安全性 (19.99%)	既存施設の更新 →アスレチック遊具 →運動施設（屋内プール、体育館など） →ベンチなどの休憩施設
スポーツや運動施設 (19.05%)	元野球場の利活用 運動施設の拡充（テニス壁打ち、バスケットゴール等） 高齢者向けの健康遊具の設置
カフェなどの収益施設 (5.84%)	カフェなどの収益施設による歳入の増 駐車場の増設
体験学習などの教育 (5.16%)	環境教育活動の実施 スポーツ教室の拡充
その他	洞峰公園北側道路の渋滞の緩和 有料施設の料金の設定 洞峰公園への関心の維持（関わり方を増やす） 歳入を増やす方法（新規事業や許可の緩和など）

また my groove では、以下のような御意見もいただいています。

- ・木製遊具や自然景観など「洞峰公園らしさ」を残したいという意見
- ・自然環境を守るための相反する意見（例：洞峰沼の浚渫の是非）
- ・議論だけで終わらせず、まず小さくても実行してほしい

そのため、パートナーシップ会議では単なる要望集約ではなく、

- ・「洞峰公園らしさを守る」
- ・「市民が関わり続けられる（分断しない）」
- ・「短期成果を示しながら長期課題につなぐ」

という3点を意識したテーマ設定が望ましいと考えます。

#### 4. テーマ（案）について

テーマ（案）として、以下の3つを提案します。3つのうち、1つを上半期のパートナーシップ会議のテーマとします。

##### テーマ案①：洞峰公園を持続的に運営するための仕組みとは？

###### ■分類：施設管理・運営

###### ■想定される論点

- ・税負担だけに頼らない運営をどう考えるか
- ・民間活用と公共性のバランス
- ・協賛やネーミングライツをどう導入するか
- ・市民協働による維持管理をどこまで進めるか
- ・利用許可制度やルールの見直し

###### ■分科会を経て想定される成果（例）

- ・小規模出店実験
- ・協賛企画
- ・利用ルール見直し案

###### ■メリット・デメリット（懸念点）

- ・メリット…税金だけに頼らない持続的な運営を市民と共有できる
- ・デメリット…財政感覚のバラつきがあると建設的な議論になりづらい。収支計画などのインプットをしっかりとする必要があり一方で、単に行政の説明会にならないよう市民参画の意義を持たせる必要がある。

###### ■短期実施事項（想定）

- ・小規模出店及びマルシェの実証実験(事業者への出店希望の確認、出店後の聞き取り調査)

##### テーマ案②：洞峰公園でどんな学びや体験ができると良い？

###### ■分類：教育

###### ■想定される論点

- ・洞峰公園らしい「学び」とは？
- ・子どもだけでなく大人も参加できる体験活動は？
- ・学校・研究機関・地域団体との連携は？
- ・「自然を学ぶ」だけでなく、健康・防災・地域交流などとの連携可能性は？

### ■分科会を経て想定される成果（例）

- ・ 観察会やワークショップなどのイベントの試行
- ・ 公園ガイド企画
- ・ 市民講座や体験イベントの実施

### ■メリット・デメリット（懸念点）

- ・ メリット…比較的小規模に始めやすく、親子参加など参加ハードルも低い。市民活動や学校連携にも発展しやすい。
- ・ デメリット…イベント単発で終わる可能性があり、継続運営の担い手確保が可能か？

### ■短期実施事項（想定）

- ・ 市民講座や体験イベントの実施
- ・ 関係団体との連携づくり

## テーマ案③：市民が公園運営に関われる仕組みをどうつくる？

### ■分類：施設管理・運営

### ■想定される論点

- ・ 市民はどのような形なら参加しやすいか？
- ・ 公園運営に関する「ボランティア」や「協働」はどのようなものが想定される？
- ・ my groove などのデジタル活用も含め、継続的な参加者をどう増やすか？
- ・ 行政や企業との役割分担は？

### ■分科会を経て想定される成果（例）

- ・ 市民ボランティア企画
- ・ 公園サポーター制度案

### ■メリット・デメリット（懸念点）

- ・ メリット…「行政主導」から「市民と育てる」公園への転換につながる。
- ・ デメリット…短期的な成果を示すのが難しい可能性。「なぜ公園運営に市民が関わるのか？」という前提が浸透していないため、参加者確保が難しくなる懸念も。

## ■短期実施事項（想定）

- ・新しい市民ボランティア制度の立案・実施

## 5. 各分野（環境、教育、施設管理・運営）の動きについて

第1回洞峰公園コンソーシアム委員会でも報告した通り、パートナーシップ会議については、令和5年（2023年）11月につくば市が実施した「洞峰公園の無償譲渡に関する市民アンケート」の記述部分を筑波大学にAI分析していただいた結果、「生態系保全」、「施設の維持管理と更新」、「子育てと子どもの遊び場」についての関心が高かったことから、「環境」、「教育」、「施設管理・運営」の各分野を設置していくとなっています。

令和8年度において、各分野の議題について、以下のように提案します。

### 「環境」分野

これまでのパートナーシップ会議やアンケート結果から、市民にとって「洞峰公園の自然を守る」という基本理念は一致していますが、何を守るのか、どのように現在の環境を維持していくかについては、様々な意見をいただいています。そこで、令和8年度については、専門家の方から、洞峰公園の生態系保全をどのように進めていけばいいか意見をいただき、それに応じた管理の実施や必要な調査等を実施します。次回の洞峰公園コンソーシアム委員会までに、進捗について報告し、パートナーシップ会議に回るテーマがあれば、テーマ（案）として示します。

### 「教育」分野

管理・運営方針を作成の上、「アスレチック」の修繕を進めてまいります。

### 「施設管理・運営」分野

洞峰公園のコストや洞峰公園の利用状況、スポーツ教室の実施状況、洞峰公園に設置されている施設などを調査し、次回の洞峰公園コンソーシアム委員会までに、お示しします。上記結果をもとに、パートナーシップ会議に回るテーマや持続可能な公園管理運営についての立案をします。

## つくば市洞峰公園管理・運営協議会設置要項改正(案)

## (設置)

第1条 洞峰公園に関わる市民等の意見を集約し、洞峰公園が有する多様な機能を活用した取組みを推進し、持続可能で魅力ある公園づくりにつなげることを目的とし、都市公園法（昭和31年法律第79号）第17条の2の規定により洞峰公園管理・運営協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

## (任務)

第2条 協議会は次に掲げる事項について協議し、その結果を市長に提言するものとする。

- (1) 洞峰公園の生物多様性の保全の方針に関する事項
- (2) 洞峰公園の公園施設の維持管理及び更新の方針に関する事項
- (3) 洞峰公園の公園施設その他公園の運営の方針に関する事項
- (4) 前3号に掲げるもののほか、洞峰公園の管理・運営方針に関する事項

## (組織)

第3条 協議会は、外部委員16名以内及び次の各号に掲げる部局の長又は次長で構成する。

- (1) 市民部
- (2) こども・保健部
- (3) 生活環境部
- (4) 教育局
- (5) 建設部

2 外部委員は次に掲げる者のうちから市長が定める委員をもって構成する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 洞峰公園において活動する市民・住民団体の構成員

- (3) 洞峰公園施設管理業務受託者
- (4) 造園関係団体
- (5) 関係行政機関の職員
- (6) つくば市議会議員
- (7) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から2年とする。

2 委員が欠けた場合における後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長等)

第5条 協議会に委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選により選出された者とし、委員会の会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(会議等)

第6条 協議会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集する。ただし、委員長が選任されていないときは、市長が招集する。

2 会議の議長は、委員長をもって充てる。

3 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

4 協議会は、その任務の達成に必要ながあると認めるときは、委員以外の者の出席を求めてその説明や意見を聴くこと、又は委員以外の者から資料の提出を求めることができるものとする。

(分科会)

第7条 協議会は、その任務の達成のために調査、検討作業等を行い、広く市民等の意見を聴くために分科会を設置することができる。

2 分科会の組織、運営その他必要な事項は、委員長が別に定める。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、つくば市建設部公園・施設課において処理する。

(補足)

第9条 この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、委員長が協議会に諮って定める。

附 則

この要項は、令和7年3月28日から施行する。

附 則

この要項は、令和8年 月 日から施行する。